

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

日々開発されるケーブルテレビ関連機器などを、実際に検証しながらチェック! 実用性に焦点をあてて報告します。

No.
171

ブラーバ

ケーブルテレビ アーキテクト 上山裕史

今号は自動清掃ロボット「ブラーバ」を紹介します。

私たちケーブルテレビ局の技術者は、プライマリIP電話やインターネットなどミッションクリティカルな双方向アプリケーションの増加により、設備の安定動作に目を光らせています。安定動作の一つの要因に清掃があります。私たちが管理する機器は精密機械です。ファンや吸気口に塵埃がたまると機器の内部温度を上げます。これは故障の原因や突然の動作停止などとなります。機器センタやサーバセンタ内床面の清掃に便利に使える、アイロボット社の「ブラーバ」という自動清掃ロボットを紹介します。

ネットワーク機器の設定や設計の高度作業の出来る人が清掃をやるのは、効率的ではありません。AI機能を搭載したロボット型掃除機に任せるのは良い選択になります。以前に本誌で掃除ロボットルンバ^(※)を紹介していますが、2つのロボットを使いこなします。ルンバでホコリを吸い取り、ブラーバで床面の乾拭きを行います。塵埃の無いクリーンな環境が実現出来ます。

外観を写真1に示します。角型の外観になっています。この中に充電可能な電池、走行センサ、CPUが内蔵されています。精密電子機器が多数収納されたセンタの床面なので、清掃液を噴射するタイプではなく、ドライクロスで床面を乾拭きします。矢印は進行方向です。写真2は走行しながら乾拭きするブラーバです。見た目は、かなりのスピードで走行し、自動的に障害物を避け床面だけを清掃していきます。写真3は直線を走行しながら乾拭きする様子です。写真4は天板を開けて内部の基板を撮影したものです。センサやCPU、内蔵電池などが搭載されているのがわかります。

1日に1回の割合で自動清掃を繰り返すと、数日間で集められるほこりの量が激減し、床面がきれいになったことを実感できます。私たちが管理する精密機器にとって環境が良くなったことを意味します。

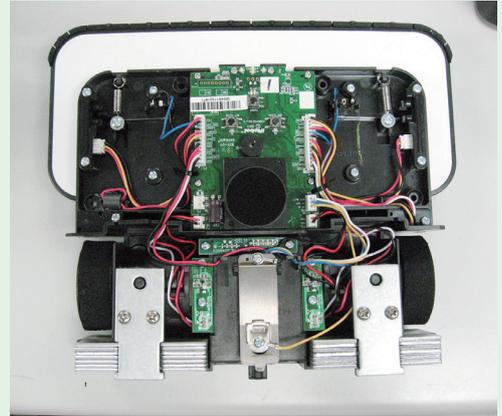


写真4:天板を開けたブラーバ

重要さはわかるが面倒なため、おざなりにされやすい清掃です。開始ボタンを押しさえすればよい自動清掃ロボットを使うことで、よりよい清掃が出来ることと思います。毎日清掃させることで、機器センタ内を清潔で埃の無いきれいな状態にでき、良いサービスをお客様へ提供することにつながると考えます。

(※)自動清掃ロボット「ルンバ」
(月刊B-maga 2010年12月号掲載)
<https://satemaga.co.jp/wp-content/uploads/cabletec/1012.pdf>



写真1:ブラーバ外観



写真2:障害物を回避して走行する様子



写真3:直線走行しながら乾拭きする様子